

〈中学校 社会科〉

**社会的な見方・考え方を働かせ、  
思考力・判断力・表現力等を育成する学習指導の工夫**

— 思考ツールを取り入れた課題解決的な学習を通して —



浦添市立 神森中学校 森田 英樹

# 目 次

<b>I</b>	<b>テーマ設定理由</b>	45
<b>II</b>	<b>目指す子ども像</b>	46
<b>III</b>	<b>研究の目標</b>	46
<b>IV</b>	<b>研究仮説</b>	46
1	基本仮説	46
2	作業仮説	46
<b>V</b>	<b>研究構想図</b>	46
<b>VI</b>	<b>研究内容</b>	47
1	思考力・判断力・表現力等について	47
2	社会的な見方・考え方について	48
3	思考ツールを取り入れた課題解決的な学習について	49
4	ICT 機器の効果的な活用について	51
<b>VII</b>	<b>授業実践</b>	53
1	単元名	53
2	単元の目標	53
3	単元の評価規準及び評価方法	53
4	単元について	53
5	単元の構成	55
6	指導と評価の計画	55
7	本時の学習	57
<b>VIII</b>	<b>研究の考察</b>	59
1	作業仮説(1)の検証	59
2	作業仮説(2)の検証	61
3	本研究を通して	64
<b>IX</b>	<b>研究の成果と課題</b>	65
1	成果	65
2	課題	65
	おわりに	66
	主な参考・引用文献	66

## 社会的な見方・考え方を働かせ、思考力・判断力・表現力等を育成する学習指導の工夫

－ 思考ツールを取り入れた課題解決的な学習を通して －

浦添市立神森中学校 森田 英樹

### 【要 約】

「思考力・判断力・表現力等」を育成するためには、社会的な見方・考え方を働かせ、根拠をもとに多面的・多角的に考察・構想して表現していく必要がある。その手だてとして思考ツールと ICT 機器を効果的に活用した課題解決的な学習について研究する。

キーワード □社会的な見方・考え方 □思考力・判断力・表現力等

□思考ツール □課題解決的な学習 □ICT

### I テーマ設定理由

21世紀は知識基盤社会と言われ、情報化・グローバル化といった社会の変化は人間の予測を超えて加速度的かつ高度化しており、個人の価値は多様化・複雑化している。このような変化の激しい社会の中で未来を創造するために必要な資質・能力を育成することは、生産年齢の減少を迎える社会において、さらに重要性が高まっていく。

新学習指導要領（平成29年3月）では、飛躍的な技術革新がもたらす社会構造や雇用環境を大きく変容させた将来の社会について言及され、「生きる力」を具体化し、「思考力・判断力・表現力等」の育成を、必要な資質・能力の三本柱の一つに挙げられた。さらに「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った質の高い学びを実現するために「見方・考え方」を働かせた授業改善への取り組みが明確に示された。

私の授業実践を振り返ってみると、グループ学習において学び合いを積極的に取り入れた結果、社会科に対する興味・関心が高まり、知識・技能を習得できたと感じる生徒も多く見られるようになった。一方で、アンケート調査（9月実施）において、「原因を考えたり、根拠を説明したりすることは苦手である」と約7割の生徒が感じている。その要因としては、断片的な知識の習得に留まり、様々な因果関係で捉えさせる視点の工夫や論理的に説明する場面が不十分

であったと思われる。また、本県の到達度調査（H26-H28）の結果からも、複数の資料を基にして社会的事象を読み取り、それらを比較・関連させて考察し表現することを課題としている。これらのことから、思考力・判断力・表現力等を育成するためには、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする学習活動を行う必要があると考える。

そこで、思考ツールを取り入れた課題解決的な学習を行い、自分の思考を可視化・構造化することで、多様な要因から意思決定し、根拠をもって説明できるようになると考えた。また社会的な見方・考え方を働かせるために、課題や問いを工夫し、主体的・対話的に展開することで、複数の情報や視点を整理しながら既存の概念と新たな考えを結びつけ、比較・関連させ、多面的・多角的に考察・構想し、表現できるようにしていきたい。

さらに地理的分野において ICT 機器を取り入れた学び合いを行うことで、教室にいながら位置や空間的な広がりに着目し、地域の特色ある地理的諸条件や人間の営みに有用的に関わるように自己解決を図ったり、他者の思考からさらに自分の考えを発展させたりすることができる深みのある双方向的な学習の促進につながると考えた。

以上のことから、思考ツールを取り入れた課題解決的な学習を通して、社会的な見方・考え方を働かせ、思考力・判断力・表現力等を育成することができると考え、本テーマを設定した。

## II 目指す子ども像

社会的な見方・考え方を働かせ、根拠をもとに考察し、協力して課題解決していく生徒

## III 研究の目標

ICT 機器を活用し、思考ツールを取り入れた課題解決的な学習について具体的に研究する。

## IV 研究仮説

### 1 基本仮説

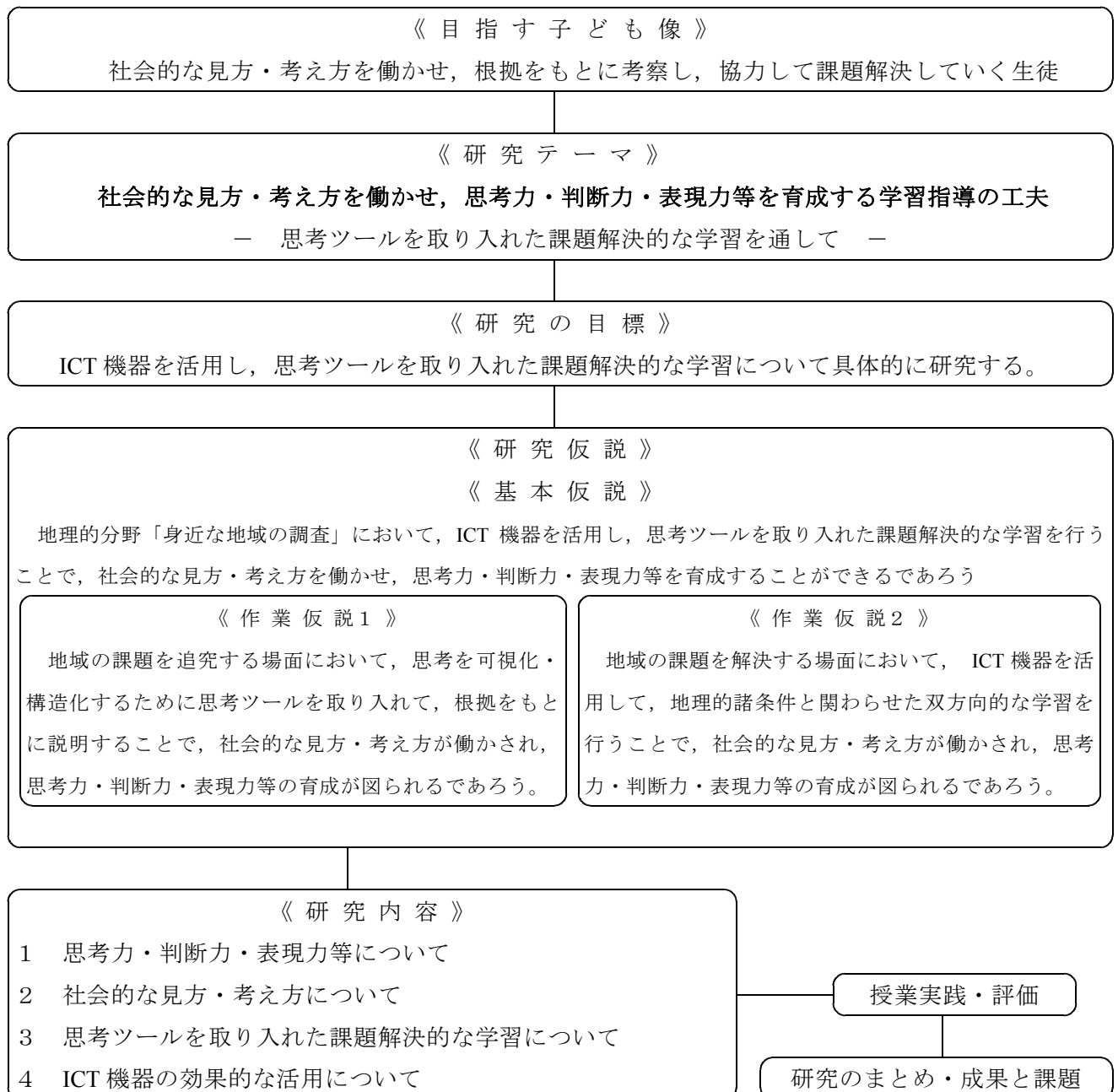
地理的分野「身近な地域の調査」において、ICT 機器を活用し、思考ツールを取り入れた課題解決的な学習を行うことで、社会的な見方・考え方を働かせ、思考力・判断力・表現力等を育成することができるであろう。

### 2 作業仮説

(1) 地域の課題を追究する場面において、思考を可視化・構造化するために思考ツールを取り入れて、根拠をもとに説明することで、社会的な見方・考え方が働かされ、思考力・判断力・表現力等の育成が図られるであろう。

(2) 地域の課題を解決する場面において、ICT 機器を活用して、地理的諸条件を関わらせた双方向的な学習を行うことで、社会的な見方・考え方が働かされ、思考力・判断力・表現力等の育成が図られるであろう。

## V 研究構想図



## VI 研究内容

### 1 思考力・判断力・表現力等について

#### (1) 思考力・判断力・表現力等

「思考力・判断力・表現力等」とは、学校教育法第30条第2項において「知識・技能を活用して課題を解決するための必要な能力」と規定されている。新学習指導要領への改訂では、「生きる力」の育成を目指す資質・能力を3つの柱に具体化し、その1つとして「理解していることやできることをどう使うかに関わり、未知の状況にも対応できる力」と明確に示された。変化が激しく課題も多岐にわたる予測困難な社会の中で必要性や重要性は高まり、強く求められている。

「思考力・判断力・表現力等」は、将来の未知な状況の中で、直面した課題に対して習得した知識や技能を活用し、周囲の状況を把握した上で、他者と協力して乗り越えていく力であると捉えることができる。

「思考力・判断力・表現力」は、一連の過程において相関的な関係にあり、互いに往還することで育成することができる能力であるとする。「思考」は「判断」によって具現化され、「表現」により活用される。他者からの評価によって深化し、再構築され、新たな思考が始まり判断基準の一つの材料となり、スパイラル的に育成されていく。さらに「表現」を念頭に入れることで「思考」はさらに深まり、より適切に「判断」した意思決定を導くことができるようになる。このように、「思考力」「判断力」「表現力」は、相互に補完的に作用し合い、融和的に形成される能力であるとする。

「思考力・判断力・表現力等」の「等」については、協働するためのコミュニケーション能力や思考言語化能力や情報を処理・解析する活用能力、課題を解決するために必要なその他の能力として捉える。

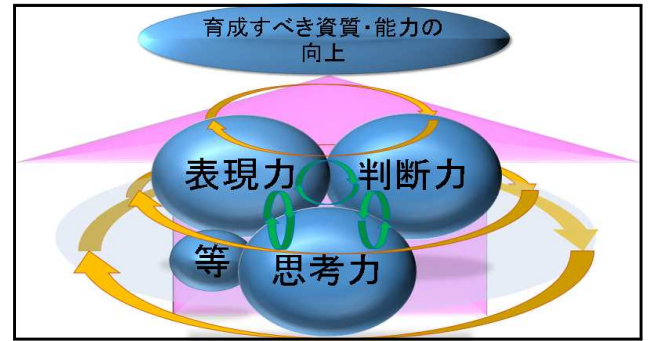


図1 思考力・判断力・表現力等イメージ図

#### (2) 中学校地理的分野における思考力・判断力・表現力等

中学校学習指導要領解説社会科編では、地理的分野における「思考力・判断力・表現力等」を「地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力」「思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力」と具体的に示された。

小原（2009）は、社会科で求められる「思考力・判断力・表現力」とは、「社会的な事象や問題を読み解く力」とし、3つのそれぞれの力を以下のように概念化している。

表1 「思考力・判断力・表現力」の概念（小原2009）

思考力	「社会科がわかる」ための問題「なぜ、どうして」を解決していくことができる力
判断力	「社会に生きる」ための問題「どうしたらいいか、どの解決策がより望ましいか」を解決していくことができる力
表現力	解決した情報を発信していくことができる力

これらのことから、中学校地理的分野における「思考力・判断力・表現力等」とは、社会的な事象が抱える問題を解決するために様々な視点から熟考し、その中から意思決定し、表現する過程を通して育成される能力であるとする。

「思考力・判断力・表現力等」の育成の過程については、中学校学習指導要領解説総則編では、大きく3つに分類されている。

本研究では、3つに分類されたうち「精査し

た情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況などに応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程」に着眼していく。

そこで、課題を追究する場面と課題を解決する場面において、対象となる地域の在り方や変容や持続可能性などの特徴に着目し、そこで見られる地理的な課題について、多面的・多角的に考察・構想し、表現し解決する活動を展開していこうと考える。

その際、生徒の視点や方法として、地域の環境条件や他の地域との類似や相違について比較したり関連付けたりすることで、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせていく。また、表現する際には、諸資料を有効に活用し、根拠として説明したり、自分の解釈を加えて論述したりする学習を充実させる。

## 2 社会的な見方・考え方について

### (1) 社会的な見方・考え方とは

今回の新学習指導要領の改訂において、全ての教科目標に「見方・考え方を働かせて」という文言が新設され、育成すべき資質・能力の軸として期待されている。

中学校社会科において「見方・考え方」とは、「課題を追究したり解決したりする活動において、社会的な事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する際の視点や方法」と定義されている。さらに、地理的分野では、「社会的な事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結びつきなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること」としている。

具体的な授業改善については、地理的事象の視点を活用していくことが「働かせる」ことになり、課題や問いと関わらせることで効果的に学習を展開できるとし、その関係性についても図2のように示された。



図2 「社会的な見方・考え方」授業例

(中央教育審議会答申別添3-5参考)

澤井(2017)によると、社会的な見方・考え方とは、「比較・関連付け、総合などの思考方法と社会科の内容とを結びつけ、社会科における思考力・判断力・表現力等の育成を支えるものであり、社会的な事象やそれを構成する事実を見いだすこと(見方)とその事象の意味を解釈すること(考え方)の相互作用によって成り立つものである」と述べている。社会的な事象が生み出す様々な事実や課題は多面的でいくつもの因果関係が重なり、起因している。その事象の多面性を捉え、比較・関連し結びつけ、解決に向かう際に必要となるのが、「社会的な見方・考え方」であると考えられる。

よって、本研究では、「社会的な見方・考え方」を「将来の課題について、多面的・多角的に捉えて、様々な社会的な事象や人々の営みと関連させて考察・構想し、解決に向けて意思決定し、他者と協力するために自分の思いを表現するための視点や方法」と捉える。ならびに様々な要因をつないだり、実社会と思考方法とを関連させたりすることで「社会的な見方・考え方」を働かせていく。

「社会的な見方・考え方」を主体的に働かせるためには、単元を通じた学習過程の中で学習課題を把握し、動機付けや方向付けをして、見通しを持たせ、考察・構想し、解決する活動を行う必要がある。そこで図2「視点を生かした考察・構想に向かう問いの例」を活用し、課題や問いを意図的・計画的に単元及び授業構成を行う。単元構成

については、実生活に結びつけた単元を貫く課題を設定する。さらに、生徒の概念をゆさぶる補助的な問いを意識して行い、思考を不調和や不一致な状態にし、思考の再構築を図ることで効果的に見方・考え方が働かされ、思考の深化が期待できると考える。

広辞苑によると「課題」とは問題を課すこと、「問い」とは「問うこと。聞き出すこと」とある。そこで「課題」とは、「生徒に追究させること」、「問い」とは、「教師が生徒に発する問いかけ」とする。

## (2) 主体的・対話的で深い学び

今回の学習指導要領の改訂で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた具体的な内容については、表2のように3つの視点に立って授業改善を行うことが示されており、これにより学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められている。

**表2 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善（中央教育審議会答申）**

① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方法と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って、次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点
② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方、手掛かりについて考えること等を通じ、自己の考えを広げ、深める「対話的な学び」が実現できているかという視点
③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして、解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点

そこで、本研究では3つの視点に立った授業を意図的・計画的に実践していく。

1つ目の視点は、「主体的な学び」が実現できるように、地域の課題を単元課題とし、解決し

ていく学習活動を行うことで、自分の住む地域の将来を見通すように工夫する。また、単元や授業のまとめにおいて、振り返りの場面を設定し、生徒の表現を促すようにしたり、自己の学びや成長を自覚できるようにする。

2つ目の視点として、「対話的な学び」が実現できるように、生徒同士の学び合いの中で、言語活動を充実させるようにする。対話によって自分とは異なる意見や根拠に触れることにより、新たな見方・考え方を獲得することになる。これは、今後の「見方・考え方」をさらに広げてより多面的に働かせることにつながると思う。

また、実社会で働く人々や専門家、関係諸機関等と円滑な連携・協働を図り、意見や考えを聞いたり、逆に解決方法を提言したりして様々な立場や視点を働かせる効果的な運用を図る。

3つ目の視点として、「深い学び」が実現できるように、地域の課題について、習得した知識や精査した情報を関連付けて活用し、根拠を基に考察し説明して、考えを発展したり創造したりして、解決していく学習活動を行う。

単元まとめにおいては、習得した社会的事象等の特色を踏まえて社会の中で汎用的に使うことができるように、学習成果を活用して表現する場面を設定する。さらに主権者として意識の高揚を図られるように工夫することで、次時への探究心や継続的な学びにつながるようにする。そうすることで、生涯にわたって能動的に学び、地域の課題に対して主体的に社会の形成に参画し、解決していこうとする態度の育成が図られるようになると思う。

## 3 思考ツールを取り入れた課題解決的な学習について

### (1) 課題解決的な学習

中学校社会科の学習指導要領（平成10年改訂）において、「基礎的・基本的な内容に厳選

し、学び方や調べ方の学習、作業的・体験的な学習や問題解決的な学習など生徒の主体的な学習を一層重視する」として、社会科の授業改善を求めている。

そして、新学習指導要領においては、中学校社会科の目標に「課題を追究したり解決したりする学習を通して」という文言を新たに位置づけ、その一層の充実を強調して表した。さらに、学習活動を充実させるため、教育課程の示し方についての改善を踏まえ、学習過程の例として大きくは課題把握、課題追究、課題解決の3つを挙げている。それらを構成する例として、動機付けや方向付け、情報収集や考察・構想、まとめや振り返りを活動としている。本研究では、これらの学習の流れにおいて具体的な学習内容について図3のように示し、実践していくこととする。

課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題の設定</li> <li>社会的事象等を知る</li> <li>課題意識の醸成を図る</li> <li>概念をゆさぶる</li> <li>課題の必要性や重要性を捉えさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決の見通しを持つ</li> <li>予想や仮説を立てる</li> <li>表現することを意識して、考察・構想の見通しを立てる</li> <li>資料を活用し、大観を捉えさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考察・構想するための根拠となる資料を収集する</li> <li>表現に必要な資料の有効性を考える</li> <li>必要な情報を収集し選択する</li> <li>様々な種類の資料を読み取る</li> <li>有効な資料を表現に関連付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する</li> <li>多面的・多角的に考察する</li> <li>話し合う</li> <li>社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する</li> <li>複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する</li> <li>他者に向けて、自分の考えを根拠を持って説明する</li> <li>他者の意見を聞いて、多面的に捉え、思考を広げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考察したことや構想したことをまとめる</li> <li>課題について再考し、結論をまとめる</li> <li>結論について発表したり、話し合ったりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習を振り返る</li> <li>学習の過程や結果を振り返り、自己の成長を感じる</li> <li>学校外の他者に学習成果を伝える</li> <li>新たな問い(課題)を思いつき、追究したりする</li> </ul>

図3 課題解決的な学習のイメージ図

(中央教育審議会答申別添3-6を参考に作成)

様々な資料を読み取り、これまでの情報と関連させながら社会的事象自体がもつ側面の「多面性」と社会的事象を様々な角度から捉える「多角性」を踏まえて、考察・構想していく。そして根拠をもって自分の意見や考えを伝え合い、自分やグループの考えを高めたり、発展させたりして課題を解決していく学習活動を展開していく。

単元構成については、単元を貫く課題を設定し、単元課題の把握、単元課題の追究、単元課題の解決、表現・探究とする。その単元過程において社会的な見方・考え方を働かせて、言語活動を計画的に展開する。単元と授業の関係性については、授業の中で行われる習得・活用・探究という学び

の過程において、図4に見られる学習の流れを単元の中で社会的な見方・考え方を働かせながら、実践していく。

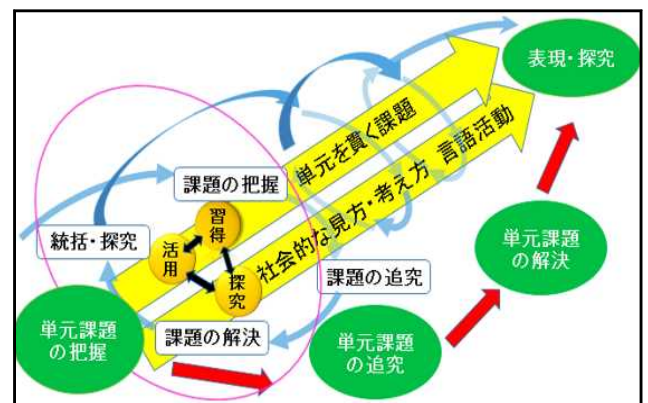


図4 課題解決的な学習の単元構成イメージ

(2) 思考ツール

思考ツールとは、田村(2015)は、その特性について「情報の可視化」と「情報の操作化」を挙げている。「情報の可視化」とは、処理する情報と情報処理の方向、その結果として成果物がよく見え、学習活動や思考の活性化を生成していくこととしている。また、「情報の操作化」とは、思考を自由自在に動かしたり、修正しやすい状況をうむこととしている。

黒上(2014)は、授業の中で思考ツールを取り入れることで、「子どもたちは、正しい理解に基づき、整理された意見を述べ、話し合いを深めることができるようになる」と述べている。

つまり、思考を図や絵として捉え、思考がどのような関係にあるかを矢印や図形をつなげたり、まとめたり、並べたりすることで示すことができる。また、全員が同じツールを使用することで、相互に理解することができ、話し合いの途中においても修正したり変更したりすることが視覚的に行うことができるため、自分の思考を説明したり、相手の思考を理解したりすることがイメージとして整理しやすく、思考を深めることができる。と考える。

さらに、思考ツールはいくつもの種類があり、それぞれに特徴が異なる。授業で実践する単元や展開する授業形態によってその特徴を使い分けて用いることができる。

そこで本研究では、思考ツールを個人で課題



追究する場面とグループで課題追究する場面，単元をまとめる場面などの学習形態によって使い分け，思考ツールのもつ特徴を最大限に生かしていく。思考ツールの活用方法としては，フィッシュボーン，Y/X/W チャート，ピラミッドチャートの3つのツールを基本ベースとし，必要に応じて矢印や丸や四角等の囲みを活用していくこととする。矢印は思考ツールにおいて重要や役割をもち，順番，時間，手順，展開，関係，理由，要因等の他にも，出発点や終点にも意味を持たせることができる。また，囲みについては，複数の意見をまとめたり，分けたりする場面で活用していく。

① 個人の考えを導き，説明する

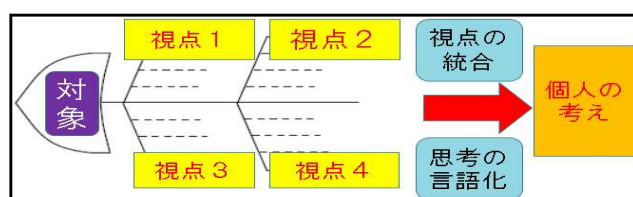


図5 フィッシュボーン

主に結果を生み出す要因を出して，いくつかの視点から検討するときに使われる。個人で考える場面において，理由付けを構造化したり視点を統合したりして，自分の考えを言語化し，説明できるように活用していく（図5）。

② グループの考えを統合する



図6 Y/X/Wチャート

それぞれの意見や価値の共通点や相違点を可視化できるため，複数の考えをまとめていくことに効果的である。そのため，グループ学習において一人の意見を取り入れるのではなく，それぞれ意見を反映させながらまとめていく場面において活用する。Y/X/Wは班員の数で使い分ける（図6）。

③ 資料と理由と結論を結び，構造化する

書くことを整理することで思考の流れを焦点化でき，主張を明確にして伝えることができるようにすることに用いられる。多くの資料から自分の主張に必要な資料を選択し活用することで，

理由（根拠）をうみだすことができ結論に結びつけ，思考を構造化できる（図7）。

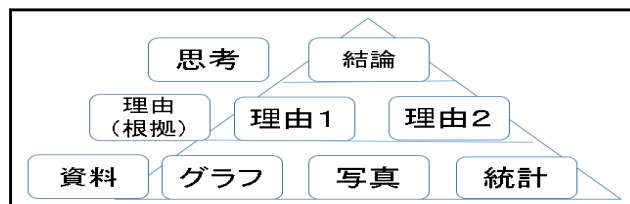


図7 ピラミッドチャート

(3) 思考ツールと課題解決的な学習の関連性

課題解決的な学習において思考ツールを活用することは，自分の思考を可視化し，既存の知識と複数の資料を比較・関連させながら多面的・多角的に捉え，分析・整理し構造化することができ，根拠をもとに説明できるようになる。さらに，グループ学習においては，互いの意見を比較したり，思考と思考を融合させたり，統合させたりすることができるようになると思う。

本研究では，思考ツールを「つなぐ」役割を担う手段として活用する。「課題と生徒の思考をつなぐ」，「過去の知識と現在の思考をつなぐ」「根拠を多面的につなぐ」「自分と他者をつなぐ」等，思考ツールを課題解決的な学習に展開していく。主体的で論点を明確にした話し合い活動が期待でき，個人やグループの考えを深めたり，発展させることができると考える。根拠をもとにして意思決定した考えを建設的に発展させるように工夫する。

4 ICT 機器の効果的な活用について

(1) 課題解決的な学習での ICT 機器の活用

ICT 機器等は，電子黒板やデジタルテレビ，指導者用デジタル教科書等，教師が生徒に提示するためにこれまで多くの教育現場で活用されている。また，新学習指導要領では，教育環境の充実を図り，「主体的・対話的で深い学びの実現」の過程において ICT 機器を活用することは効果的であると明記され，推進を後押ししている。

これまでの ICT 機器の活用について，大きく教師側と生徒側に分類すると，教師側の主な使用方法については，電子黒板等を活用し

て生徒に資料を拡大して提示し説明したり、生徒の考えを教師側に送信させ、全体で共有したりする等の視覚的効果を図るために使われていることが多かった。生徒側の主な使用方法としては、インターネットによって資料を収集したり、撮った写真や動画を確認するために多く使われていた。学校現場においては多種多様な機能性をもつ ICT 機器を教師側と生徒側をどのように結び、活用していくかが重要であると考え。

そこで、タブレット端末においてこれまで主に利用されていた機能の利便性を高め、さらに双方向的な学習を容易にできるように教育アプリ「ロイロノートスクール」を活用する。既存の活用方法を充実させながら、その中で思考ツール機能を使用して、個人やグループでの思考を可視化・構造化し、思考の分析や整理して根拠を基に説明できるように支援していく。さらに教師と生徒、生徒同士への送信機能を活用し、他者からの考えを取り入れ、多面的・多角的に捉え、情報活用能力を発揮しながら、双方向的な学習を行い、考えを深めていくことにつなげていく。なお、言語活動が十分に行えるように授業進行に留意していく。

(2) 社会的な見方・考え方を働かせる ICT 機器の活用

校外での地域調査は、特に都市部の学校において、生徒の移動や活動中における安全の確保や、時間的制約という視点から、実践において十分に活動したり、思考を広げたり深めたりすることに対して課題が見られていた。

しかし、タブレット端末の機能を活用すると、あたかもその場に訪れたり、見ることができる疑似体験が可能となる。地域の自然や場所の様子、建築物を見ることができ、視野を広げたり、自分たちの地域と比較したり関連づけたりすることができる。さらに、実際の調査では見ることができない視点（上空等）や立体的な様々な視点からの調査が瞬時に可能となり、社会的な見方・考え方を働かせることができると考えた。

インターネットを活用し、地域の課題を解決するため有効な資料を検索したり、航空写真からの視点で俯瞰することで、地域の大観を高めたり、地域の人間の営みを感じ、既存の地域的感覚とを結び、位置や空間的な広がり認識させて地域の課題を解決する方法を考える学習ツールとして役立てていく。

また、ICT 機器を使用した学びについては、様々な用途があり、場面や学習形態に応じ、図8のように効果的な活用を図り、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるようにタブレット端末等の ICT 機器の有効性に着目し、これまでの懸念材料を解消して、発展させていきたいと考える。

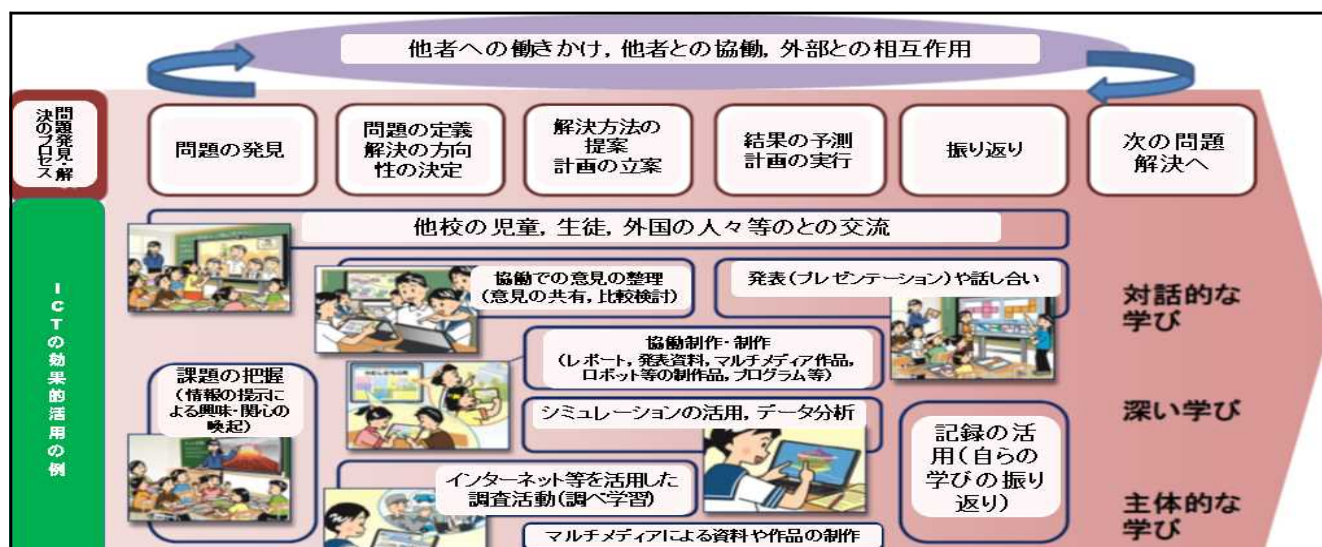


図8 主体的・対話的で深い学びの視点に立った学びの過程におけるICTの効果的活用例

(文部科学省引用)

## VII 授業実践

### 中学校第2学年 社会科学習指導案

平成29年12月6日（水） 5校時

神森中学校 2年7組 38名

指導者 森田 英樹

#### 1 単元名

「身近な地域の調査」

－ 市民が笑顔になるコミュニティーバスのルートを考えよう －

#### 2 単元の目標

身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に関する理解と関心を深めて、地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を養うとともに、市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を身につけさせる。

#### 3 単元の評価規準及び評価方法

##### (1) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
身近な地域の地理的事象から見いだした課題を基に身近な地域の特色を捉え、地域の発展について考えようとしている。	市町村規模の地域的特徴を捉えるための課題を追究する視点や方法を考察し、適切に選択している。	身近な地域の特色を表した地勢図と資料やグラフを適切に読み取ることができる。	地域の環境条件や他地域との結びつき等、人間の営みとのかかわりに着目して、捉えた身近な地域の特色を理解し、その知識を身につけている。

##### (2) 評価方法（思考力・判断力・表現力等）

パフォーマンス評価を用いて、社会的な見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察し、適切に表現できているかを評価する。その際、ルーブリック（評価指標）であらかじめ生徒に提示し、生徒が主体性をもって高い目標を達成できるように意識を高め、効果的な能力を育成できるようにする。また、生徒の学びの到達点を明確にすることで指導と評価の一体化を図っていく。

##### ルーブリック（評価指標）

規準	評価内容
A	社会的な見方・考え方を働かせ、2つ以上の視点で考察・構想し、根拠をもとにわかりやすく説明できる。
B	社会的な見方・考え方を働かせ、1つ以上の視点で考察・構想し、根拠をもとに説明できる。
C	社会的な見方・考え方を働かせ、根拠をもとに考察・構想し、説明することができない。

#### 4 単元について

##### (1) 教材観

本単元は、学習指導要領の地理的分野の内容「C 日本の様々な地域(4)地域の在り方空間的相互依存作用などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身につけさせる」にあたるものである。さらに、地理的分野のまとめに位置付けられ、分野学習の集大成としての働きがあり、既習の知識や技能等の学習成果を生かすことが期待されている。

世界の諸地域や日本の諸地域における、地域を構成する特色や相互の関連を地理的諸条件（位置や分布、人と自然環境等）について、履修した内容の良さや課題解決を生かし、身近な地域がよりよく発展していくことについて学び合うことで、主体的に取り組み、学びの価値が高まり、将来の行動力につながる深い学びが実践できると考える。そこで、身近な地域の現状や課題を把握し、追究したり解決していく学習を取り入れる。単元を貫く課題として「市民が笑顔になるコミュニティーバスのルートを考えよう」とする。「笑顔になるバス」とは、「乗客がたくさん乗るバス」「よく利用するバス」「いろんな人が乗るバス」を示す。地域の写真やグラフを活用して、地域の現状や発展性の視点から捉えたり、人間の営みとして自分とは違う視点（性別・年齢・住宅地域・移動目的等）に立って思考させることで、地域について多面的・多角的に捉え、思考を広げ、より良い社会を創ろうとする態度の育成を図る授業を展開していきたい。

## (2) 生徒観

「身近な地域の調査」については、小学校第3学年において、身近な地域や市町村の地理的な環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりや人々の生活との関連性を履修している。その後、身近な地域については、総合的な学習の時間や他教科の視点から学ぶ機会がある。地域も変容を遂げ発展していく中で、生徒は成長してきた経験や行動範囲の拡大によって地域に対する情報も増え、地理的感覚も養われていく。

しかし、生徒実態アンケートを実施したところ、「地域の情報について新聞やニュースを進んで見る」と答えた生徒は7%であった。さらに「車などで移動しているとき、地域の変化などに興味がある」と答えた生徒は15%であった。つまり、生徒の地域への関心や、実社会への参画についての当事者意識もまだまだ低く、選挙権取得まで後4年と迫る中学2年生の主権者としての意識を自覚させ、公民的資質や能力を育成する必要がある。

そこで本単元を通して、地域住民としての意識を高め、実社会で身につけた資質や能力を生かし、地域のために主体的に参画する態度を身につけさせ、身近な課題や問題を解決していくための継続性のある深い学びが実現できるように工夫していく。

## (3) 指導観

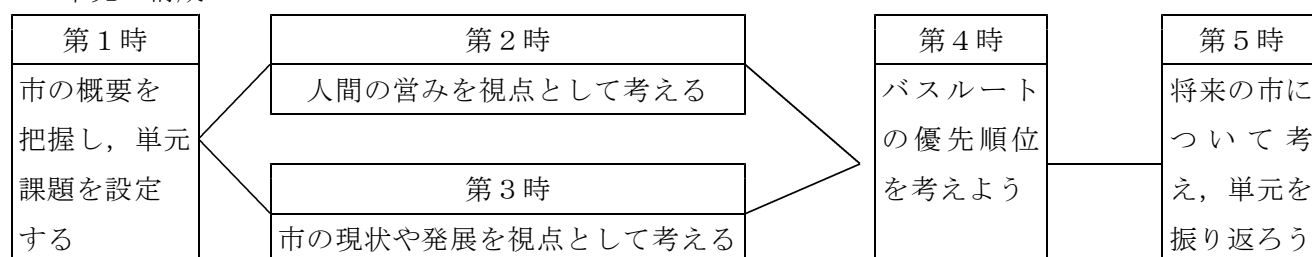
単元構成においては課題解決的な学習の流れを展開していく。「単元導入」については、地域を航空図によって俯瞰させたり、地域の発展を地図に加工して概要を大観させたりして、身近な地域についての興味・関心を高めていく。「単元課題の追究」においては、課題について社会的な見方・考え方を働かせて、多面的に考察・構想できるようにし、知識や技能の習得を図っていく。「単元課題の解決」においては、習得した知識や技能を活用し、自分の意見や考え方を伝え合い、自分や他者の意見や考え方を発展させ合意形成にむかい、問題を解決し、より良い社会を目指せるようにしていく。

「単元のまとめ・追究」については、これまでの学習の成果を発揮し、地域住民として行政への提言を行ったり、行政側の立場に立ち、地域住民への広報していく活動を通して、学んだことの意味に気づいたり、これからも地域住民の一員としての意識を高め、学んだことを社会生活に生かそうとする態度につなげていく。

授業展開について導入の場面では、前時とのつながりを意識し、課題を明確にしていく。地域についての新聞記事や地理的諸条件の資料やグラフを活用し、知識や技能の習得を図っていく。課題を追究する場面では、考察や構想にむかう際に社会的な見方・考え方が働くように地理的な視点を生かした「問い」を意図的に行う。さらに、思考を可視化・構造化できるように思考ツールを活用し、多面的・多角的に考察・構想し、根拠をもとに説明することができるように工夫する。課題を解決してい

く場面では、双方向的な学習によって、地理的な諸条件について自分の考えとの相違について比較したり関連させたりしていく。その時に ICT 機器を活用し、活発な思考の交換が行われるようにしていく。授業まとめの場面においては、自分の評価をするとともに、自分の考えが他者の意見によってどのように変わったのか、発展したのかを把握させ、自分の成長を感じさせたい。

## 5 単元の構成



## 6 指導と評価の計画

単元を貫く課題：「市民を笑顔にするコミュニティバスについて考えよう」

※表記 《関》〔関心・意欲・態度〕《技》「技能」《思》「思考・判断・表現」《知》「知識・理解」  
《ツール》〔思考ツール〕

時	学習活動	学 習 内 容 〔教師の支援〕	評 価	思考ツール ICT 機器等
1	ねらい	浦添市の概要を捉え、単元課題を把握する		
単 元 課 題 の 設 定 把 握	<b>【習得】</b> 〔教師説明〕 課題設定 ・全体 <b>【活用】</b> ・個人 ↓ ・グループ <b>【探究】</b>	○市の「昔」と「今」を比較することで発展の様子に気づかせ、市の「将来」について予想させる。 ○市の断面図で東高西低に気づかせる。 ・モノレールの延長 ・西海岸開発 ・総合病院移転 ・道路 「市の現在と将来の課題について考えてみよう」 「これらの課題を解決して市民が笑顔になるためには、どうしたらいいだろうか」 <b>【単元課題の設定】</b> ○単元学習の見通しをつける。○単元評価の説明をする。 ○今日の振り返り（自分の成長・自己評価）	○様々な資料を読み取ることができる。 《技》 ○概要を捉え単元課題を把握し、追究しようとしている。《関》 〔授業観察ワークシート〕	土地利用図 yahoo 地図 航空図 《ツール》 ピラミッドチャート X/Y/W チャート タブレット 言語活動
2	ねらい	人間の営みを視点として考える		
単 元 課 題 の 追 究 知	課題設定 〔教師説明〕 <b>【習得】</b> 課題把握 課題追究 ・ <b>【活用】</b> 課題解決	○前時とねらいの確認 「バスを利用する人の視点に立って、どのようなルートにすると笑顔になるか考えてみよう」 ○課題についての現状を説明する。 ①移動制約者（高齢者）②通勤・通学者 ③公共交通空白地域の住民 「バスルートで工夫する点について考えよう」 <b>【個人】</b> 課題について考える。 ※視点を焦点化できるように考える際の注意点を確認する。 <b>【グループ】</b> 個人で考えたことをグループで話し合いまとめる。	○課題についての現状を理解することができる。《知》 ○人間の営みを視点として考察・構想し、根拠をもとに説明できる。 《思》 〔授業観察	土地構想 地図 google earth グラフ提示 《ツール》 フィッシュボーン X/Y/W チ

識 の 習 得	統 括 【探 究】	【全体】で確認する。 【個人】他者のアドバイスを参考に、考えを再構築させる。 ○今日の振り返り（自分の成長・自己評価）	ワークシート]	ヤート タブレット 言語活動
3	ねらい	市の現状や発展を視点として考える		
単 元 課 題 の 追 究 ・ 知 識 の 習 得	課題設定 課題把握 課題追究 【習 得】 課題解決 【活 用】 統 括 【探 究】	○第1時の確認と過去の行政の取組みについて理解させる。 ○ねらいの確認 「市の発展についての視点に立って、どのようなルートにすると笑顔になるか考えてみよう」 ○課題についての現状を説明する ①西海岸開発 ②モノレールの延長 ③交通渋滞の緩和 「バスルートで工夫する点について考えよう」 【個人】課題について考える。 【習 得】※視点を焦点化できるように考える際の注意点を確認する。 【グループ】 ○個人のグループを話し合いでまとめる。 【全体】で確認する。 【個人】他者のアドバイスを参考に、考えを再構築させる。 ○今日の振り返り（自分の成長・自己評価）	○資料を読み取ることができ る。《技》 ○課題について の現状を理 解することが できる。《知》 ○地域の現状 や発展を視点 として考察・構 想し、根拠を もとに説明で きる。《思》 〔授業観察 ワークシート〕	地図 google earth グラフ提示 《ツール》 フィッシュ ボーン X/Y/W チ ヤート タブレット 言語活動
4	ねらい	バスルートの優先順位を考えよう 【本時】		
単 元 課 題 の 解 決 ・ 活 用	課題設定 課題把握 【習 得】 課題追究 【活 用】 課題解決 統 括 【探 究】	○単元のこれまで学習内容について確認する。 ○「市民が笑顔になるコミュニティーバスのルートを考えてるとき、どの視点を優先させた方が良いかを考えよう。」 ○現在の取り組みについて説明し、課題を把握させる。 【個人】 【グループ】 ○グループで検討し、優先順位を決める。 【全体】 ○各グループの考えをまとめる。 【個人】他者のアドバイスを参考に、考えを再構築させる。 ○今日の振り返り（自分の成長・自己評価）	○考察・構 想し、根拠を もとに説明で きる。《思》 〔授業観察 ワークシート〕	《ツール》 ピラミッド 《ツール》 ピラミッド 言語活動 《ツール》
5	ねらい	将来の浦添市について考え、単元を振り返ろう		
単 元 ま と め	課題設定 課題把握 【習 得】 課題追究 【活 用】 課題解決	○前時の確認 「市の将来について自分の考えを発信しよう」 ①市役所の人として、地域住民へ ②地域住民として市役所（都市計画課）の人へ 【個人】 ○これまでの学習を踏まえて、200文字程度原稿をつくる。	○これまでの 学習をもとに して、社会的 な見方・考え 方を働かせ、 考察・構想し、 根拠をもとに	

・ 単 元 探 究	統 括 【探 究】	<p>【ペア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○互いに原稿を確認する。</li> <li>○1分程度の動画を録画し合い、自分の考えを表現する。</li> </ul> <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○都市計画課の方へ自分の考えを発表する。(5～6名)</li> <li>○都市計画課の方から、生徒の意見についての感想や生徒に向けての市への参画に向けての激励等を行う。</li> <li>○単元の振り返り (自分の成長・自己評価)</li> <li>○これからの自分</li> </ul>	説明できる。 《思》 ○行政に参画しようとしている。《関》 〔授業観察 ワークシート パフォーマンス 評価〕	ICT 録画  専門家が都合によって来校できない場合は、通信機能を活用する。
-----------------------	--------------	--	--	---



7 本時の学習【4／5時間】

(1) 目標

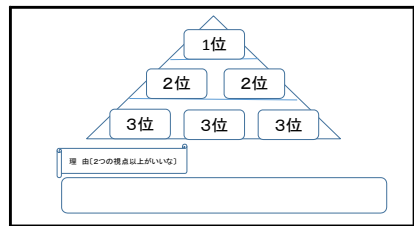
これまでの学習を生かし、「市民が笑顔になるコミュニティーバスのルートを考えるとき、どの視点を優先させた方が良いか」について、考察・構想し、根拠をもとに説明できる。

[思考・判断・表現]

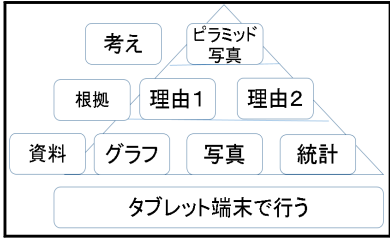
(2) 本時の工夫

- ① 課題を追究する場面において、思考を可視化・構造化するために思考ツールを取り入れ、多面的・多角的に捉え、根拠をもって説明できるようにする。
- ② 課題を解決する場面において、ICT機器を活用して地理的諸条件についての双方向的な学習を行い、自分の意見や考え方を再構築したり発展させたりすることができるようにする。

	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価方法
導 入  5分	1 これまでの学習内容について、確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で学習した6つの視点について活用してきた資料をもとに確認し、前時を想起させる。</li> <li>○高齢者 ○通勤・通学者 ○公共交通空白地域の住民</li> <li>○西海岸活性化 ○モノレールとの連結 ○交通渋滞解消</li> </ul>	
展 開  10分	2 課題を確認する 〔課題設定〕 〔課題把握〕 【習得】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市民が笑顔になる循環型コミュニティーバスのルートを考えるとき、どの視点を優先させた方が良いかを考えよう」</li> <li>・課題について解決していく流れについて説明し、把握させる。</li> </ul>	
展 開  15分	3 評価の確認する  4 課題について考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視点の公平性を保つように注意する。</li> <li>・社会的な見方・考え方を働かせるように助言する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>「6つの視点の優先順位を考えてみよう」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 5px;"> <p>〔図1：ピラミッド：ワークシート用〕</p> </div>	[A評価] 2つ以上の視点で考察・構想し根拠をもとに説明できる。



20 分       38 分	5 課題について自分の考えを説明し合い、合意形成していく  【活用】 〔課題解決〕	<p>【個人】・思考ツール〔ピラミッド〕を活用し、ワークシートで優先順位をつける。その後、タブレットのピラミッドで根拠となる資料を三段目に二段目には〔図2：ピラミッド：タブレット用〕理由を書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1位を1つ，2位を2つ，3位を3つにすることで円滑な授業展開を図る。</li> </ul> <p>【グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人のデータをリーダーに送信させ，集約させる。</li> <li>・グループ内で思考ツールを取り入れて，説明し合い，検討し，優先順位を合意形成していく。合意形成していく際に必要な個人の資料や理由が必要な場合はリーダーに送信し，まとめている。</li> <li>・思考ツール〔ピラミッドチャート〕を活用し，一番上の段には班の考えを，二番目の段にはその理由を，一番下の段には，班員の考えを添付して班員の考えやグループでの思考の様子が可視化できるようにする。</li> </ul>	<p>〔B 評価〕</p> <p>1つ視点で考察・構想し，根拠をもとに説明できる。</p> <p>〔思・判・表〕 〔授業観察ワークシート〕</p> <p>ICT データ送信</p> <p>ICT データ送信</p>
ま と め  45 分  50 分	6 自分の考えを見つめ直す  〔統括〕  【探究】  7 振り返りを行う	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの考えをまとめ，教師のタブレット端末に送信させ，電子黒板で各グループの考えを確認していく。</li> </ul> <p>【個人】 他者のアドバイスを参考に，考えを再構築させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が達成できたか。</li> <li>・自分の考えが他者の意見を聞いてどのように変わったか。</li> </ul>	



(3) 〔板書計画〕

<p>12/6</p> <p>単元課題</p> <p>「浦添市民が笑顔になる コミュニティーバスのルート を考えよう。」</p> <p>「笑顔のバス」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「たくさんの人が乗るバス」</li> <li>・「何度でも乗りたくなるバス」</li> <li>・「いろんな人が乗るバス」</li> </ul>	<p>本時の課題</p> <p>「バスルートの優先順位を考えよう」</p> <p>6つの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者</li> <li>○通勤・通学者</li> <li>○公共交通〔空白地域〕の住民</li> <li>○〔西海岸〕活性化 ○〔モノレール〕との連結</li> <li>○〔交通渋滞〕解消</li> </ul> <p>※理由（根拠）を必ず考えて説明できるようにしよう。</p> <p>〔個人〕 時間 〇：〇〇まで</p> <p>〔グループ活動〕 時間 〇：〇〇まで</p>	<p>まとめ</p> <p>住みよい（笑顔の）街づくりには，環境条件や人間の営みなど多くの視点から考えていく必要がある。</p>
--	--	--



## VIII 研究の考察

### 1 作業仮説(1)の検証

地域の課題を追究する場面において、思考を可視化・構造化するために思考ツールを取り入れて、根拠をもとに説明することで、社会的な見方・考え方が働かされ、思考力・判断力・表現力等の育成が図られるであろう。

#### (1) 思考ツールについて

仮説1の手だてである思考ツールは、第1時から第4時において実践を行った。ここでは、第2時、第3時での具体的手だて、結果及び考察を中心に述べる。

##### ① 手だて

複数の視点を用いて、自分の考えを導き出すために「フィッシュボーンツール」という思考ツールを取り入れて、地域の課題を追究させることで、思考の可視化・構造化を図り、社会的な見方・考え方を働かせ、思考力・判断力・表現力等の育成を図った。

##### ② 結果

第2時で単元を貫く課題「市民が笑顔になるコミュニティーバスのルートを考えよう」において、バスを利用する割合が高い立場（高齢者・通勤通学者・公共交通空白地域の住民）を選択し、複数の視点（立場の内容・乗車目的・乗車降車時間帯・場所）を考え、それらの視点を活用しながら意見を個人でまとめ、その後グループで意見交換を行い、全体で共有した。授業後、ワークシートを確認したところ、全員（100%）が自分の意見をまとめ、記入できていることが確認できた。さらに、複数の視点を反映させた考えをまとめることができていた。

考察・構想に関する意識調査では、「自分の考えをまとめ、文章にすることができますか」という質問に対して、肯定的に回答している生徒の割合は51%から97%への増加が見られた（図9）。

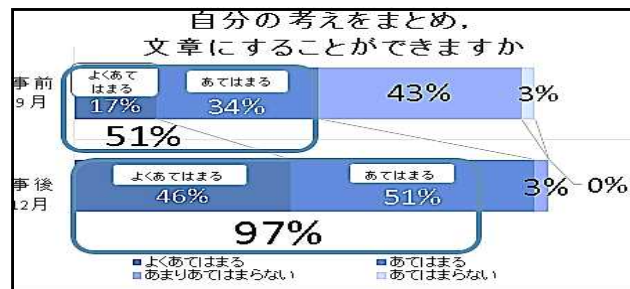


図9 考察・構想に関する意識調査

#### ③ 考察

考察・構想に関する意識調査の結果から、授業後には否定的な意見が大きく改善され、さらに、「あてはまらない」と回答した生徒は0%になっている。事前調査で「あてはまらない」と答えた生徒に対して追跡調査をしたところ、「考えを頭の中でまとめるとよくわからず、ずっと考えてしまうけれど、考えを図にしてみると自分の考えが見えるし、矢印でまとめていけばいから文章にしやすかった」との感想があった。

また、図10からは中央部A～Eの視点を働かせて考察し構想することで、自分の考えに反映させて文章化できていることが確認できる。これは、思考を可視化し、順列することで、思考が構造化され、自分の意見をまとめることができたと考えることができる。

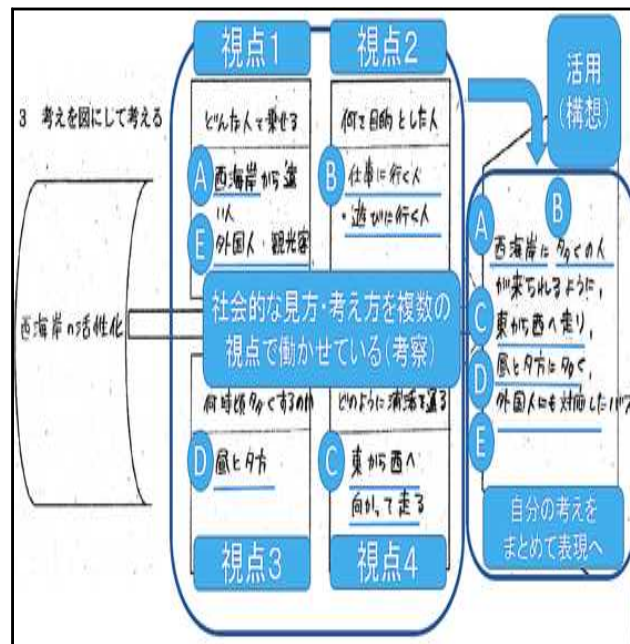


図10 思考ツールを活用したワークシート

これらのことから、思考ツールによって思考を可視化・構造化することは、社会的な見方・考え方を働かせ、考察・構想でき、自分の考え

をまとめて表現する上で有効な手だてであり、その過程において、思考力・判断力・表現力等が育成されたと考えることができる。

(2) 根拠をもとに説明することについて

① 手だて

単元課題について、第4時の「市民が笑顔になるコミュニティーバスのルートを考えるとき、どの視点を優先させた方が良いかを考えよう」において、思考ツール（ピラミッドチャート）を活用する。自分の考えに必要な資料を選択して、根拠を考え、互いに自分の考えを説明させた。

② 結果

表現に関する意識調査 A を見ると、「根拠をもとに説明することができましたか」の設問に対して、否定的な意見が大きく改善され、全員（100%）が肯定的に回答している（図11）。

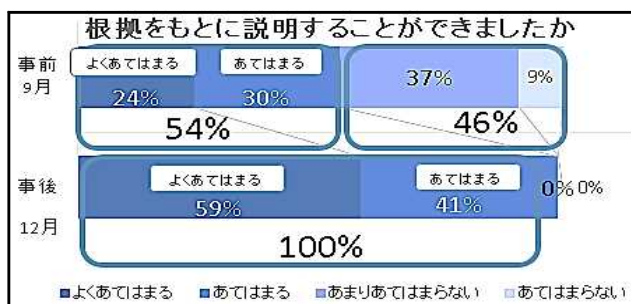


図11 表現に関する意識調査A

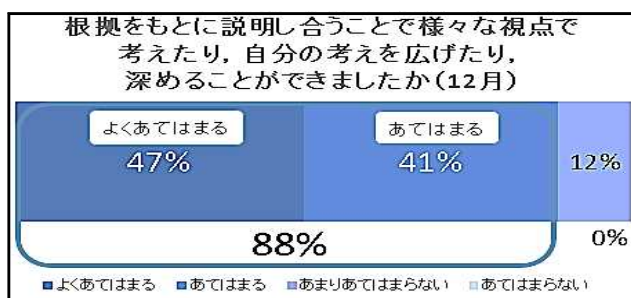


図12 表現に関する意識調査B

さらに、「根拠をもとに説明し合うことで、様々な視点で考えたり、自分の考えを広げたり、深めることができましたか」の設問に対して、88%の生徒が肯定的に回答した（図12）。

③ 考察

図11の表現に関する意識調査 A を見ると、事前回答では46%が否定的に回答していることから、根拠をもとに説明することに対して苦手を感じている生徒が、かなり存在してい

ることを認識できた。まずは苦手意識を払拭するために、根拠をもたせる手だてを行う必要がある。

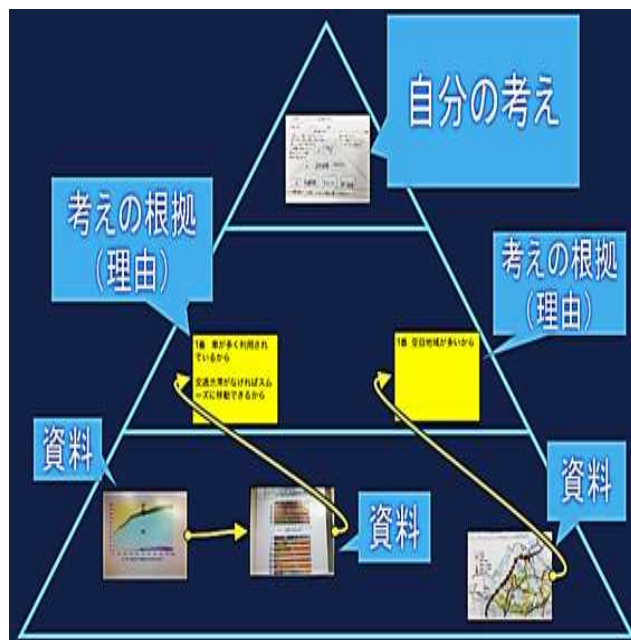


図13 根拠をもとに説明する時の思考ツール

そこで、思考ツールを活用し自分の考えをまとめる過程を図式化することで、自分の理由付けに必要な資料を選択し、線（矢印）で結び、根拠（理由）と関連付けて、自分の考えに結論付けることができるようにした（図13）。資料をもとにして根拠をもたせることができれば、自分の考えが構造化され、説明することができるようになると考えられる。さらに、生徒は互いに根拠をもとに説明し合うことで、より多面的・多角的に物事を捉え、様々な視点で考えたり深めたりすることができるようになったと思われる（図12）。

また、表現に関する意識調査 A（図11）において、「根拠をもって説明することができる」ことに苦手意識がある生徒に追跡調査をしたところ、「資料の意味がよくわからないので、根拠をもとに説明することができない」との回答が見られた。このことから、「資料を読み取ることができない」ことが「根拠をもとに説明することができない」ことの要因の一つになっていることがわかった。

そこで、教師が ICT 機器を使って地図や写真やグラフに矢印や線で加工しながら、つまづきのある生徒が理解できるように視覚的変化や増減について読み取る方法や考え方の視点を与える手だてを行った（図14）。



図14 写真に線を加え、説明している様子



図15 資料を読み取ることに関する意識調査

その結果、図15からも見られるように、否定的な意見は見られず、全員（100%）が肯定的な意見であった。このことから資料を読み取る支援を行うことで「資料を読み取ることができない」という問題を克服し、根拠をもとに説明できることにつながったと考えることができる。

以上から、資料を読み取れることで、社会的な見方・考え方が働かされることになり、自分の根拠となる資料を選択することができるようになる。そして、思考ツールを活用することで、資料を選択することから自分の考えをまとめるまでの思考過程が具体的に構造化され、根拠をもとに説明できるようになり、思考力・判断力・表現力等の育成が図られたと考えることができる。

## 2 作業仮説(2)の検証

地域の課題を解決する場面において、ICT機器を活用して、地理的諸条件と関わらせた双方向的学習を行うことで、社会的な見方・考え方が働かされ、思考力・判断力・表現力等の育成が図られるであろう。

## (1) ICT機器の活用について

### ① 手だて

課題を解決する場面において、教師が説明する時に用いたデータや厳選した資料を生徒に送信し、その中から自分の考えに適応する資料を選択し、根拠にして自分の考えを構築し、他者に説明させるようにした。また、グループで互いの意見をまとめた内容をICT機器を使って送信させ、全体で確認し、共通理解を図った。

### ② 結果

ICT機器に関する意識調査によると、「タブレットを活用すると授業はわかりやすくなりますか」という設問に対し、95%の生徒が肯定的に回答している（図16）。



図16 ICT機器に関する意識調査A

また、「タブレットで資料を見ながら話し合い活動を行うとわかりやすくなりますか」という設問に対し、100%の生徒が肯定的に回答している（図17）。

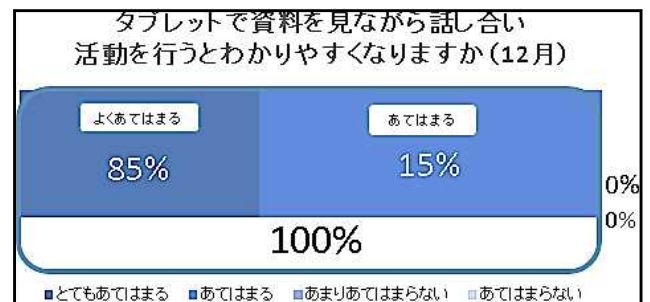


図17 ICT機器に関する意識調査B



図18 教師から受信した資料を読み取る生徒

さらに、タブレット活用に関する感想について、以下のような内容が表出された（表3）。

**表3 タブレット活用に関する感想**

- (ア) 先生から送信されたデータから自分にあった資料を選ぶことができたので、資料を探す時間が省け、話し合い活動がしっかりできた。
- (イ) 話し合い活動で、自分の考えを発表する時に、タブレットの資料を見せながら、説明するとうなずいて聞いてくれたし、説明が上手にできたと思う。
- (ウ) それぞれの意見をタブレットを使ってからグループの意見としてまとめるようにしたことで、みんなの意見が反映されていることがわかって、まとめやすかった。



**図19 タブレットを活用して説明している様子**



**図20 タブレットを活用してまとめている様子**

### ③ 考察

ICT 機器に関する意識調査 A 及び B の結果からも ICT 機器を話し合い活動に活用することは生徒にとって効果的であることがわかった。「あまりあてはまらない」と回答した生徒の多くは、タブレットの操作スキルが不十分であることが理由として考えられる（図16・図17）。

話し合い活動でタブレットを活用することが、効果的な理由を表3から見るができる。

(ア)の感想からは円滑に授業を展開し、話し合い活動に十分な時間を確保できるように工夫した結果だと考えられる。生徒は、教師が厳選し送信した資料を読み取り、根拠をもとに自分の

考えをまとめることができている。（図18）。

さらに、図19及び表3（イ）の生徒の感想から、自分の選択した資料やまとめた考えを ICT 機器を使って、視覚的に活用し説明することで、相手にわかりやすく伝えることができている。このように教師が分類した多くの鮮明な資料を生徒全員にまたはグループに瞬時に送信することで、ICT 機器のもつ機能が最大限に生かされ、双方向的な学習が効果的に行われていると考えることができる。

また、聞き手側の生徒感想からも「話し合い活動の時にタブレットで資料を見せながら聞くとその人の意見もわかりやすかった」とあった。このことから、意見の話し手側及び聞き手側の双方からグループ活動において ICT 機器の有用性が示されたと考えられる。

図20及び表3の(ウ)の生徒感想からは、タブレットによって班員の考えを図として可視化し、集約することで、それぞれの意見を反映させながらまとめ、発展させることができていることがわかる。さらに、グループの意見を教師に送信し、電子黒板で拡大して表示することで視覚的に学級全体で共有することができた。

以上のことから、ICT 機器の機能性を十分に活用することで、資料を効果的に読み取ることができ、社会的な見方・考え方を働かせることにつながることを認識できた。また、ICT 機器によって互いの考えを可視化することは、それぞれの考えを理解し合ったり、まとめたりすることに有効であり、双方向的な学習が活発に行われることがわかった。

これらのことから、ICT 機器の活用が、思考力・判断力・表現力等を育成することに有効であると考えられる。

### (2) 地理的諸条件を関わらせた双方向的な学習について

#### ① 手だて

課題を解決する場面において、位置や空間的な広がりに着目し、地域の特色ある地理的

諸条件や人間の営みの視点を働かせて、自分の考えを他者に説明したり、互いの意見をまとめたりすることで、他者の思考を自分の思考に有用的に関わらせ、考えを再構築したり発展させたりできるようにした。

## ② 結果

アンケートによる生徒の双方向的な学習に対する意識調査では、「友だちと協力して課題を解決していく学習は必要だと思いますか」という設問に対し、肯定的な回答が事前調査の80%に対して事後調査では97%に増加し、特に「とてもよくあてはまる」と回答した割合の増加が顕著に見られた（図21）。

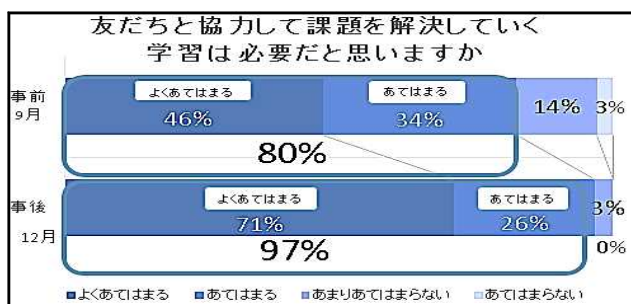


図21 双方向的な学習に関する意識調査

「人の意見を聞いてさらに自分の考えを広げることが必要なことだと思いますか」という設問では、肯定的な回答が事前調査の91%に対して事後調査では94%に増加し、特に「とてもよくあてはまる」と回答した割合の増加が顕著に見られた（図22）。

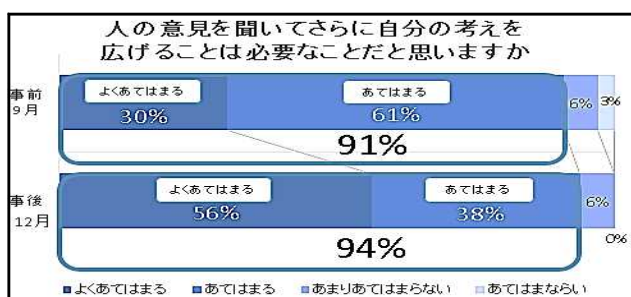


図22 思考の再構築に関する意識調査

また、授業後にワークシートを記入させ、授業の振り返りを行ったところ、表4のような生徒の感想が見られた。

## ③ 考察

図21と図22の意識調査から、生徒は授業において友だちと協力して課題解決をする学習の必要性を感じ、その学習過程における他者の意見

を聞くことが自分の考えを広げる可能性について認識しているといえる。

図23において、具体的に考察してみると、下線部①から、最初、自分では意見をまとめることができていない様子が見られる。しかし、下線部②では、双方向的な学習による他者の意見により、下線部③ではその良さを認め、下線部④によって自分でまとめることができ、自分の成長を感じることにについての表出が見られる。

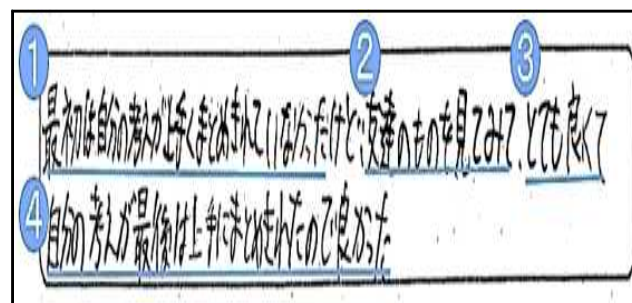


図23 思考を再構築させた生徒の感想

表4 振り返りに見られた生徒感想

- (ア) 自分とは違った意見をする人がいて、互いに理解し合ったり、自分の意見をさらによくすることができてとても良かった。
- (イ) 最初は、自分の考えが一番使えると思ったけど、他の人の意見を聞いて、自分の考えが足りないことがわかった。
- (ウ) 他の人の意見を聞いて、自分のとは違う意見だけど、すごいと思った。もっと他の良い考えがないか考えてみたい。
- (エ) いろいろな人の意見を聞いて、納得する部分がとても多かった。人の意見の考えを自分の考えに加えていくと、もっと良くなっていくと思った。

表4の振り返りに見られた生徒感想から分析してみると、(ア)からは自分の考えと異なり、対立する意見にも関わらず、互いの意見を理解し合い、尊重し、自分の意見に生かすことができていることがわかる。(イ)からは、人の意見を聞いて自分の不足部分を認め、さらに改善を試みようとする態度を確認することができる。(ウ)からは、他者の良さを認めるとともに、今後さらにいい考えにしていこうとして主体的な学びにつなげようとする様子がわかる。(エ)からは、他者の意見を通じて課題に対して多面的に捉えており、その意見を吟味し、自分の意見に加え、より良い考えに発展させていこうとしていることがわかる。

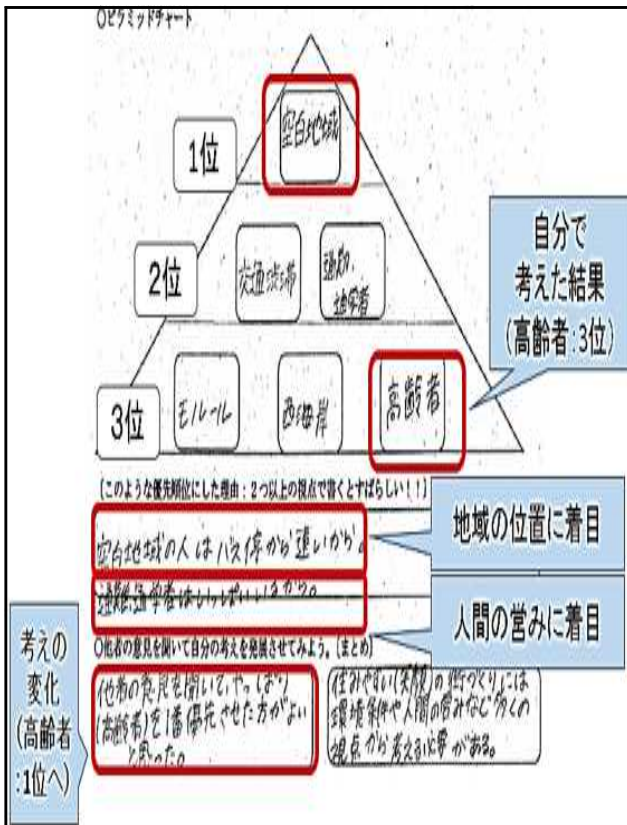


図24 生徒の授業ワークシート

次に、図24の生徒の授業ワークシートから分析してみると、地域の課題について地域の特色である位置や人間の営みの視点を働かせ、自分の考えをつくることができている。

また、別の視点から図24を分析してみると、課題を追究した考えから、他者の意見を聞くことで、比較する思考の再構築が行われ、他者の意見を認め、より思考を広げることができていることがわかる。

よって、双方向的な学習を通して、自分の意見を互いに伝え合い、聞き合うことで、同意や対立も含めて、より多面的に捉えることができ、思考の幅も広げることができると考えられる。

さらに社会的諸条件を踏まえながら、最初に考察した内容と再考察した内容を比較し、どちらかを選択したり組み合わせた考えにしたり、さらに新しい考えをつくりだしたりすることで自分の考えを発展させることができるとわかった。

これらのことから、地理的諸条件を関わらせた双方向的な学習は、他者との相乗効果によって社会的な見方・考え方をより多面的・多角的に働かせることになり、思考の再構築をさせることで、

発展的な考えをつくりだすことができる。つまり、思考力・判断力・表現力等が育成されていると考えることができる。

### 3 本研究を通して

本研究では、単元を貫く課題を地域の課題とし、追究したり解決したりする課題解決的な学習を行った。また、単元や授業のまとめにおいて振り返りの場を重視し、授業のまとめ及び自己の学びや成長を自覚できるように工夫した。

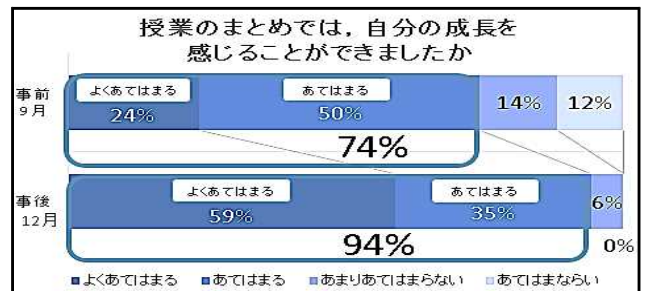


図25 振り返りに関する実態調査

図25からも授業によって自分の成長を感じた生徒が増えていることがわかる。さらに注視すべきは、表5(ア)の生徒から「できるようになった」と自己の伸長を感じたことで、次につながる主体的な学びに向かう態度の育成が図られていることがわかる。

表5 生徒の単元振り返り

- (ア) 単元の最初の方は考えて説明できなかったけど、グループで他人の意見を聞いて、また新しい意見を考えたりすることで、説明することができるようになったし、深く考えることができるようになった。これからの授業でもいかしていきたいし、地域についても考えていきたい。
- (イ) 自分が住んでいる地域について知れたり、考えたりすることができたので、とても良かった。また、課題について色々な立場で考えたり、深めることができたので、より勉強になったと思う。
- (ウ) 意見をまとめて発表できた。地域を深く考えることで、地域の見方が変わってもっと知りたくなったし、自分の地域がもっと住みやすくなればいいと思った。
- (エ) 住む地域はとても便利だけど、解消していく必要のある問題がまだまだあることがよくわかった。将来、地域の役に立つ人間になりたいと思った。

また、生徒同士の双方向的な学習が「見方・考え方」を広げることができることは前述した

が、表5の(イ)からも課題に対して多面的・多角的に捉え、社会的な見方・考え方を働かせたことで、自分の考えを深めていると感じている。

図26の社会的な見方・考え方に関する意識調査からは、実社会で働く人々や専門家の意見や考えを聞いたり、逆に解決方法を提言したりすることで、違った立場や視点で考えることができるようになっていくことがわかる。さらに、表5(ウ)からは、違った立場や視点で考えることで、継続して探究していこうとする態度が育成され、対話的な学びが効果的に実現されていると思われる。



図26 社会的な見方・考え方に関する意識調査

また、習得した社会的な事象等の特色を踏まえて社会の中で汎用的に使うことができるように、単元まとめにおいて、学習成果を活用して表現する場面を設定した。

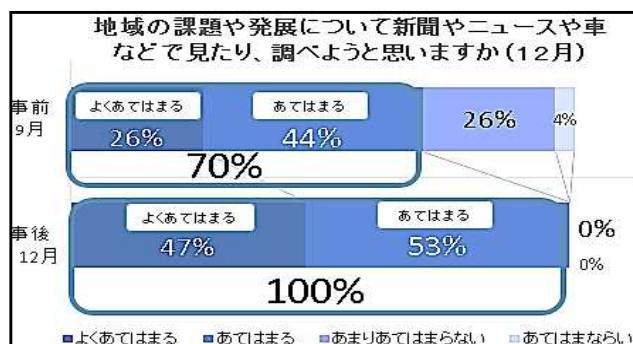


図27 探究に関する意識調査

図27の探究に関する意識調査では、事前調査の肯定的な意見が70%であったのに対し、事後調査では、全員(100%)の生徒が肯定的に回答している。また表5(エ)からは、地域についての関心が高まり、今後も地域について継続的に探究し、地域に主体的に参画していこうとする態度の表出が見られる。

これらのことから、単元を貫く課題を地域の課題とし、課題解決的な学習を通じた習得・活用・探求という学びの過程において、社会的な見方・考え方を働かせながら、情報を精査し既存の知識

と関連付けて課題について追究したり解決したりする学習活動は、思いや考えを広げたり発展させたり、新たにつくりだしたりして、「深い学び」の実現につながるということがわかった。

以上のことを総合すると、思考ツールを取り入れた課題解決的な学習を通すことで、「主体的・対話的で深い学び」が実現し、社会的な見方・考え方を働かせ、思考力・判断力・表現力等を育成することができると結論づけることができる。

## IX 研究の成果と課題

### 1 成果

(1) 課題解決的な学習において、思考ツールを活用して思考を可視化・構造化することで、物事を多面的・多角的に捉える思考の流れが確立され、根拠をもとに説明することができるようになり、社会的な思考力・判断力・表現力等を育成することができた。

(2) 地域の地理的諸条件について、ICT 機器を活用し、双方向的な学習を行うことで、他者や思考の比較・関連ができ、自分やグループの考えを発展させたり新たにつくりだしたりする思考の相乗効果をつくりだし、互いの社会的な思考力・判断力・表現力等の育成につながった。

(3) 課題解決的な学習において、単元を貫く課題を設定したり、地理的事象の視点を生かした考察や構想に向かう問いの工夫を行うことで、社会的な見方・考え方を効果的に働かせることができた。

### 2 課題

(1) 一つの授業の中で、同じ思考ツールを複数回異なる活用をしたことで、思考の混乱を生じさせた生徒が見られ、つまづきのある生徒への配慮が不十分であった。

(2) 地域情報を網羅的に収集・選択したり、地域人材の検討や調整等を行ったりする事務的作業に時間を要したことから、事前準備を含めた全体計画を立てる必要がある。

おわりに

漢字を知らなくても、単語や語句の意味がわからなくても、場所がわからなくても、ひらがなで入力・検索するとそれらの知識を獲得することができます。日進月歩の情報技術の進化は私たちの生活様式や在り方を激変させ、その依存度も年々増加しているように思えます。果たして30年前の日本において、《現在》を想定した人がどれほどいたでしょうか。そして、さらに30年後の《未来》も想像をはるかに超えた社会を迎えることでしょう。

このような著しい社会情勢の変化に対応し、未来社会を創造していく人材育成のために、今年度、学習指導要領が改訂されました。生きる力を育成する資質・能力を3つの柱に再整理し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善の推進が図られ、これからの教師の授業づくりに求められることとなります。

「未来社会が必要とする人材、求める人間像を育成する授業づくりのためにはどうしたら良いだろうか」を目指すことが私の研修のきっかけでした。目指す授業像に近づくために、新学習指導要領や解説、書籍などを研究を通して熟読できたこと、異校種の研究員と研修したり交流したことは、私の大きな財産になり、資質向上につながっていることと思います。

検証授業では、課題を必死に解決していこうとする眼差しや、友だちと学び合い、協力し、「できた」「わかった」「そうだね」と笑顔になり成長を感じる生徒をじっくり観察することができました。また、授業後の生徒アンケートや生徒感想を分析していく中で生徒の成長の証が認められたり、継続して探究していこうとする姿勢が見られたことは教師冥利につける瞬間でした。

今後はさらに研鑽を積み、生徒が成長できる授業づくりに励むとともに、研究で重ねた成果を周囲の先生方とともに共有し、広く教育に還元できるようにしていきたいと思えます。

研修期間中、また入所前よりご指導ご助言をいただきました長濱京子所長はじめ教育研究所の皆様、検証授業や報告書等、教科に関するご指導ご助言をいただいた石原昌英こども育成係長、検討会や報告会等でご指導ご助言をいただきました浦添市教育委員会の方々へ深く感謝申し上げます。

また、教育研究所での研修を薦めてくださった平良亮指導部長・神谷加代子教頭をはじめ、検証授業や意識調査などで学校を訪れる際に、進捗状況を気にしていただき声をかけていただいた砂川恵長校長、伊志嶺清教頭、同校の諸先生方、そして第46期長期研究員として半年間の研修をともに励んだ先生方に心より感謝申し上げます。

#### 【主な参考・引用文献】

- |  |       |
|--|-------|
| ・中学校学習指導要領 文部科学省                           | 2017年 |
| ・中学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省                     | 2017年 |
| ・中学校学習指導要領解説 社会科編 文部科学省                    | 2017年 |
| ・「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 中学校編 小原友行 明治図書 | 2009年 |
| ・見方・考え方 [社会科編] 澤井陽介・加藤寿朗 東洋館出版社            | 2017年 |
| ・「思考ツール」の授業 田村学・黒上晴夫 小学館                   | 2013年 |
| ・だれでもできる 社会科 学習問題づくりのマネジメント 北俊夫 文溪堂        | 2016年 |
| ・アクティブラーニングを位置づけた中学校社会科の授業プラン 小原友行 明治図書    | 2016年 |
| ・授業を磨く 田村学 東洋館出版社                          | 2015年 |